

## 編集後記

▼『現代宗教研究』第五十七号をお届けします。

▼令和三年十二月より、赤堀正明師が新所長に就任致しました。

▼第五十五回中央教化研究会議は、令和四年（二〇二二）九月七日に「イノベーション〜日蓮宗を未来から構想する〜」というテーマで開催されました。本年度は未だコロナ禍の渦中ということで、Web会議サービスZoomを使用した会議形式を用いました。特別講演として「株式会社みらい共創技術研究所」代表取締役の樋口邦史氏に「『イノベーションを興す』・未来を取り残すな」と題し、イノベーションの基本的な意味について学び、それを踏まえて、続く基調講演として当研究所所長の赤堀正明師より「日蓮宗のイノベーション」と題して講演していただきました。午後は四分科会に別れ、座長とそれぞれの問題提起者のもと会議を行いました。第Ⅰ分科会「教化学のイノベーション」では、教化学と教化学の乖離、教化学と現場の教化・布教を折り合わせるためのどのような試みが必要か、について議論しました。第Ⅱ分科会「宗門教育制度のイノベーション」では、子弟教育については宗門教育機関でのカリキュラムの連続性・統一性についてどうあるべきか、生涯教育では多様性にも配慮しつつ検討しました。第Ⅲ分科会「宗門ジェンダーのイノベーション」では、宗門における女性教師登用をどの

ように進めるか検討しました。第Ⅳ分科会「宗門運動のイノベーション」では、これまでの宗門運動の成果と問題点を提起し、今後あるべき宗門運動について議論しました。各分科会の話し合いの詳細は今号本文をご覧ください。

▼昨年七月に起こった、安倍元首相の殺害事件に端を発し、破壊的カルトとしての旧統一教会の抱える様々な問題が一斉に論じられるようになりました。当研究所におきましても、当研究所特別研究員・櫻井義秀氏による特別講演を、八月二十三日に、「安倍元首相殺害事件があまり出す統一教会の七十年―政治・宗教運動と資金調達戦略の変遷―」と題して行われました。当日は宗務院伝道部所管「日蓮宗カルト問題対策プロジェクトチーム」も参加して意見交換がなされました。内容は本文をご参照下さい。

▼令和三年度に行われました「日蓮宗女性教師アンケート」は一年半を経て、漸く調査結果を纏めて発行に至りましたが、今号において、調査メンバーの一人である宗教社会学者の丹羽宣子氏による論考を収載することができました。アンケート調査結果と併せてお読み頂ければと思います。当研究所嘱託・山内寛久師による論考は教化学と教化学の一体化という宗門における一つの課題に対する考究です。中井本蓉師・松井大宗師の論考は当研究所研究員研究会での発表を元にしたもので今後の継続した研究が期待されます。